

「祓川小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿屋市立祓川小学校

2 学年・人数

5年生15人・6年生11人（計26人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年7～9月 体育の授業（本校体育館・運動場）

(2) 発表の日時・場所

令和4年9月25日（日） 運動会（本校運動場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

祓川棒踊り（はらいがわぼうおどり）

(2) 由来

祓川には郷土芸能として棒踊りと八月踊りがある。旧3月4日「産土神」である瀬戸山神社に奉納するのが棒踊りである。この棒踊りは、江戸時代に帯刀を禁じられた農民が、武芸を盛り込んで士気を鼓舞したものである。昔の踊りは動作、歌曲ともに緩慢で薩摩人の気性に合わないので、明治15年ごろ喜入より師匠を招き、テンポの速い踊り「武術を崩した踊りで勇壮なもの」を移入したものが現在まで伝えられている。

(3) 構成等

本来は、こざし持ち（先導役）、踊り子、たかび（九尺の竹棒に紙「赤く染められた麻」を垂らしたものを持つ役）、主取（指南役）、歌い手の順で行列をつくり踊る。踊り子は、集落によって構成に違いがある。①上祓川18人、6人一組の3組六尺棒、②中祓川18人、6人一組の3組六尺棒2人、三尺棒4人の一組、③下祓川16人、4人一組の四組六尺棒。子どもたちは、歌い手の生歌のもと、③下祓川の構成を基本として練習を行っている。

5 保存会や地域との連携の具体

祓川棒踊りは、地域の有志で構成された20人程度の保存会が存在する。元来、各集落単位で小・中学生への指導を行い、3月中旬に瀬戸山神社に奉納を行っていた。小学校ではこれまで、高学年（5・6年生）の男子児童は棒踊り、女子児童は八月踊りをそれぞれの保存会の指導の下、練習し運動会で披露していた。しかし、児童数減少とコロナ禍による運動会午前開催のため、棒踊り（八月踊り）の練習を工夫している。運動会本番では、保存会の方々の生歌に乗せて披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

棒踊りのような郷土芸能については、定期的に異動がある学校では、職員だけの指導は難しい。どうしても、指導のできる保存会の方々に頼らざるを得ない現状がある。学校では、高学年の体育（表現）の中で、棒踊り（八月踊りも）を行っているため、歴史的背景等をしっかり学ぶ場がないが、地域での練習の際、歴史的な背景等、しっかりと学ぶ場を設けていただいている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5・6年生児童】

- ・ 動きが難しいけど、練習は楽しい。
- ・ 3月の瀬戸山神社での踊りも、練習が大変だけれども、今年も参加したいと思う。
- ・ 大人の人（保存会の方々）が、教えに来てくださるので、がんばって練習しなければと思った。

【教職員】

- ・ 地域に伝わる郷土芸能を学ぶことは、自分たちの故郷を知り、誇りをもつことにつながる。高学年になったら棒踊りを運動会で披露するということが児童の中では、最上級生の特権的なものになっており、棒踊りを踊ることに誇りをもっているのではないかと思う。
- ・ 学校職員だけでの指導は、なかなか難しいと思う。保存会の方々の力を借り、今後も続けていければと思う。

【保存会から】

歴史ある祓川の郷土芸能である「棒踊り」と「八月踊り」については、祓川の伝統芸能であり、伝えていなければならない。保存会の構成メンバーが少しずつ高齢化していくので、後継者を育てなければならない。1人でも多くの児童が郷土芸能に関心を持ってもらえれば有難い。

【地域の方から】

昔は、各集落にたくさんの子供がいたので、「八月踊り」も「棒踊り」も集落毎に教えていた。子供が少なくなってきたので、昔のようにはいけないと思うが、小学校でも取り組んでもらって有難い。ぜひ今後も、（運動会での披露を）続けていってほしい。